

東郷和子先生 勇退記念コンサートについて



長年にわたり日本の音楽教育を牽引されてこられた東郷和子先生が、この度ご勇退されることになりました。先生は、東郷音楽学院院長として数々のコンクール審査員をご担当され、世界的に著名なピアニストらによるコンサートや公開講座を主催されてこられました。また、毎年開催されましたアンサンブル(ピアノ2台~4台)の春コンサートは、多くの人々に親しまれてきました。

これらの音楽教育への多大なる貢献から、東郷和子先生は、1994年、ABI (American Biographical Institute) “Woman of the Year”メダルとABI 功労賞を受賞(現代国際人名辞典第31版に掲載)、加えて1995年、IBC (International Biographical Centre) 功績栄誉賞・名誉賞・国際メリット勲章(英国、IBC 世界人名事典第23版に掲載)、1995年MBC賞、2015年南日本文化賞の受賞など、数々の素晴らしい功績を残されておられます。

この度のご勇退に伴い、東郷先生が所有されていたすばらしいピアノを当ホテルに置かせていただくことになりました。これを記念し、感謝の意も込め、指揮者の尾崎晋也先生ならびにMBCユースオーケストラの皆様のご協力のもとに記念コンサートを開催させていただき運びとなりました。東郷和子先生とご関係のある多くの皆様方や音楽をご愛好される方々にご参集いただけますと幸いです。

永田 一郎

Profile



Conductor 尾崎晋也

桐朋学園大学に学び、卒後、渡米しペンシルベニア州を拠点に演奏活動を始める。1993年、ルーマニアで行われたディス・ニクレスク国際指揮コンクールにて入賞。その後、アメリカ、ヨーロッパなど各地のオーケストラを指揮する。合唱の分野でも評価は高く、ハンガリー国立合唱団はじめ多くの合唱団を指揮している。1994年以来現在まで、長きにわたってルーマニア国立トゥルグ・ムレシュ交響楽団の常任指揮者を務め、1999年より音楽監督。2005年1月、ルーマニア大統領から同国文化に大きく貢献した功績を認められ、芸術文化勲章(コマンドール)を受けた。また、ムレシュ県から「ALAE」という県民

栄誉賞、トゥルグ・ムレシュ市からは「名誉市民」の称号を受けている。加えて、在日ルーマニア大使館から「文化交流功労賞」、日本国外務省から「平成26年度外務大臣表彰」、南日本新聞から「南日本文化賞特別賞」を受賞。

2016年のシーズンよりルーマニア国立ディス・リパッティ交響楽団常任指揮者に就任。現在、ルーマニアで二つの楽団の常任指揮者を務め、同国音楽界の牽引役として評価されている。

音楽活動以外では南日本政経懇談会新年特別講演会(2011年)、FM中九州やMBCラジオなど多数出演。また豊富な経験と語学力を評価され、オランダ、アムロ銀行主催の経済界シンポジウムに招かれ講演(「リーダーシップとはなにか」)、2015年にはTEDxトゥルグ・ムレシュにて「今を生きる」、そしてTEDx Kagoshima では「音楽二国境アリ」を講演している。執筆活動としては、2014年まで11年間、南日本新聞にてエッセイ「指揮棒の休憩」を連載し、それらをまとめた初めての著書「笑うマエストロ-国立交響楽団の表と裏」が、さくら舎より出版されている。2016年より「薩摩大使」。現在、鹿児島県のタウン誌、「LEAP」にてエッセイ連載中。

最近の話題では、若くして亡くなったショパンの弟子 カール・フィルチュ(現ルーマニア領出身)を研究。萩原千代 ピアノ演奏のCD「カール・フィルチュの世界」をプロデュースした。同CDは2017年4月ビルボード・ジャパン・クラシック部門売り上げ第1位を記録している。昨年9月にはエクアドル国立交響楽団に招かれ、南アメリカにデビュー、満場のスタンディングオベーションを受けた。今年9月には同楽団を指揮し、「日本エクアドル国交100周年記念コンサート」を指揮。MBCユースオーケストラは1991年より指揮。



Pianist 永田一郎

1985年鹿児島市で生まれ、3歳からピアノを始め、5歳から東郷和子氏に師事。14歳までに南日本ジュニアピアノコンクール、日本ピアノ教育連盟主催ピアノオーディション、全日本学生音楽コンクール等で受賞、ならびにポーランド国立クラクフ室内管弦楽団と共演。

15歳から8年間アメリカ・ボストンへ留学。留学中、Harvard Musical Association's 2004 High School Achievement Awardで優勝、ボストン市内にて優勝記念コンサートに出演。2007年に母校の高校の新校舎設立記念コンサートにて地元オーケストラとリスト作曲ピアノ協奏曲第一番共演。2008年にBoston University (Biochemistry and Molecular Biology Major) 卒業後帰国し、翌年順天堂大学へ入学。在学中ショパン国際ピアノコンクール in Asiaへ出場、アマチュア部門での受賞や一般部門にてアジア大会出場を経験。2013年にポーランド・シレジアフィル管弦楽団とショパン作曲ピアノ協奏曲第一番共演。2018年秋、東京芸術劇場にて行われた第4回SPクラシックコンサートに出演、はまぐんと仲間たちオーケストラ(指揮:濱一氏)とラフマニノフ作曲ピアノ協奏曲第二番を共演。

これまでに鍵岡真知子、Roberto Poli、Monica Godoy Tesitore、東郷和子各氏に師事。現在、メディポリス国際陽子線治療センターで医師として診療を行う傍ら、鹿児島大学大学院博士課程(放射線診断治療科)に在籍。

MBCユースオーケストラの紹介

1964年、南日本放送の創立10周年記念として、地元鹿児島市の文化への貢献を目的に創設された。民間企業の支援による青少年オーケストラとしては日本で最も長い歴史を持ち、演奏レベルも高いものがあります。

常時90人ほどの団員(小学4年生から満25歳未満まで)が在籍し、指導者のもと、週1回の練習に励んでおり、その成果は年1回の定期演奏会、県内の地方公演、その他の演奏会で発表し、多くの県民に親しまれています。

1976年には、アメリカ建国200周年記念として、1カ月にわたりアメリカ各地への演奏旅行を行い、1991年には、韓国全州市で演奏会を行うなど、国際親善にも寄与してきました。

南日本放送では、MBCユースオーケストラの運営、経費、練習場の提供など、すべてに責任を持っており、1993年12月には永年にわたる芸術・文化の振興に対する貢献が認められ、「93メセナ特別賞」を受けています。

これまでに1,000人を超える青少年が巣立ち、国内はもちろん世界的に活躍するプロの音楽家も生まれています。地元のオーケストラ「鹿児島交響楽団」のメンバーの多くは、同オーケストラの出身です。